

ワークショップ「小平市まちづくり会議」の記録

平成 16 年 1 月 24 日 (土)

第 1 回 ・ワークショップの進め方の確認

(「ひと」「暮らし」「まち」「自然」の 4 グループを設定)

平成 16 年 2 月 21 日 (土)

第 2 回 ・グループごとに分かれ、グループリーダー、サブリーダー、書記を決定。

平成 16 年 3 月 13 日 (土)

第 3 回 ・第 2 回の宿題 (理想のまちの姿、 どんな方法をとるべきか、 自分たちにできること) に基づいて意見交換。

ひとグループ

それぞれが持ち寄った宿題をもとに、「理想のまち (小平の望ましい将来の姿)」について意見交換を行った。理想のまちの姿としては以下のようなものがあげられた。

人間性にあふれるまち

一生涯のまち

生産機能、生活環境と自然との共存ができるまち

生活文化産業の創出ができるまち

活気のあるまち、住みやすく福祉のまち

子どもから高齢者まで、一人ひとりが人間として大切にされるまち

すべての市民がそれぞれの所得に応じて安心して暮らせるまち

多摩地域特有の緑の残るまち

子どもたちが遊べる広場のあるまち

子育て中の若い世帯が気軽に交流できるまち

最終的に、今回の会議でまとめられた理想のまち (第 3 回会議までの共通認識) は、

1 子育てがしやすいまち

2 子どもから高齢者までいろいろな世代の人を見かけるまち

の 2 つとなった。次回は、これらを少し深めて話し合うこととなった。

・預けるところ、お母さんとお父さんの役割変化、日本らしさ

- ・まち全体で子育てを応援（商店街の空き店舗の活用、地主の理解、団地の中、市民が集う場所、農家の協力）
- ・誰が何をやるのか、できるのか。
などの要素を踏まえつつ、具体的な方策や自分たちにできることなどについて、次回会議まで各々が考えてくることとした。

くらしグループ

- ・コミュニティバスをまずよくしたい。
（バス便をよくするといろいろなことが活性化する。東西地域の楕円循環）
- ・実際の小平市の状況をよく出し合おう。
- ・施設はそろっているが、児童館や学童が弱い。
- ・バリアフリー化が進んでいるようでも、萩山駅等はまだまだ。
- ・情報文化都市。文化の悪い面を何とかしたい。
- ・一段高い見地で、まず「よくして」人が集まってくるように考えないと。
- ・声が伝わるような方法を考える。
- ・コミュニティセンターがもっと集える場になれば、いろいろな役割が果たせる。
- ・マンションを建てるときに住民のコンセンサスを得るような条件がない。
- ・農家とサラリーマン、商店等が一緒になったまちづくりを。
- ・パソコンを教える援助を市でもっとしてほしい。
- ・お金のかからないことでもできることはある。
- ・自治会が形骸化している。
- ・防火、防災のまちづくりには、市がリーダーシップをとって手を入れないと。

まちグループ

課題

- ・明るい未来の夢
- ・悪くしないための提案、方法

市の方針とスタンスはどうなっているのか知りたい。

このワークショップでどれだけできるのか。これで「芽」をつくれればよいのでは？

ここで討議されたものがどう反映されるのか確認したい。今後の市議会で提案書が作成されるのか。

一次、二次計画書がほしい。

自然グループ

テーマの選択は、自分たちのアイデアを中心にまとめていく。実現可能性を追求。

水と緑に育まれたまち - 自然の恩恵を生かす

農のあるまちづくりー市民菜園の充実（トイレ、ベンチ、水）

玉川上水の自生野草の保護、育成

このほか、CO₂を吸収する樹木を増やしたい、グリーンロードなどに公衆トイレがほしい、などの意見が出された。

リーダー会確認事項

〔協議すべき事項〕

中間報告をするか もう少し進んだ段階で、実施するか否かについて決定する。

グループ会議の開催回数 毎回やることにする。

グループ会議の時間 16 時～17 時とする。それぞれのグループの話し合いは、時間厳守で 16 時に終了させる。

この会議の位置づけ

- ・他グループで議論するテーマに対して、盛り込んでもらいたい内容に関する意見や要望の受け渡しの場にする。
- ・他グループの進捗状況の確認。

〔リーダー会から市へ〕

コミュニティバスは、どこのグループが持つかがどこでも議論になった。

このテーマは“まち”で持つ。

最短のルートだけを走っているにとどまり、ルートに問題がある。この見直しが必要であろうとの意見がある。自転車にも乗れない高齢者がいる（くらし）。自然や公園について。

グリーンロード、用水、用水路への放魚、小さな公園など（くらし）

運動できるような公園と、ポケットパークのようなものが混在している状況になっている。明確なテーマを持った公園作りが必要（まち）

自然グループは、検討すべきテーマが概ね絞られているようなので、まとまった段階で他のグループに回覧して欲しい（まち）

市民提案の受け入れ方

Q：実際に、どこまでが受け入れられるのか？ワークショップの位置づけなどについて、文書で提示してもらいたい。審議会にワークショップメンバー枠を用意してもらいたい。できれば次回、文書で回答してほしい。

事務局：提出してもらい終わりということは考えていないが、出てきたものを全て受け入れることはできない。審議会は、20 名の定員のうち、3

～ 4 名の市民公募枠とする予定である。

提言書はまとめられた段階で、庁内策定委員会はじめ、審議会などの各策定主体に提示していく。現段階で採用できるという担保はできない。

配布資料について

Q：くだいら「歩っとマップ」を、基本的にはまちづくり会議参加者全員に配布することが望まれる。

事務局：担当セクションを交えて、検討する。

〔市からリーダー会へ〕

提言書に名前を載せても良いかどうかを、グループ内で確認してもらう。

平成 16 年 4 月 17 日（土）

第 4 回 各グループでテーマ決め、または決定したテーマについて意見交換。

ひとグループ

小平市を「子育てがしやすいまち」にするためにはどうしたらよいか意見交換。

課題

- ・ 保育料が高い。
- ・ 待機児童が多い。
- ・ 保育士一人あたりの子ども数が多い。
- ・ 専門職の雇用条件が悪い。
- ・ 親が過保護になってきている 子どもの自立が進まない（親の自立も）。
- ・ 子どもの数が減少して、兄弟姉妹のつながりがなくなっている。
- ・ 子どもを外で遊ばせるのが怖い、一人で外出させるのが不安。
- ・ 男性は地域にとけこみにくい（子どもと触れ合えない）。
- ・ 子育てに不安を感じている親も多い。
- ・ 情報があるが相談できない。
- ・ 相談については、特に夜間の相談が問題。
- ・ 幼保一元化の問題。
- ・ 中高生のたまり場がない。
- ・ 学級崩壊が進んでいる。

対応策・アイデア

- ・ 保育所にカメラを設置する（安心のために）。
- ・ 保育士・教員を確保する。

- ・子育て経験者を活用する（資格職だけでなく）。
- ・子どもと高齢者が一緒に過ごす場をつくる（特に小さい子どもが自由に遊ぶ場）。
- ・子どもまつり（交流、伝承の機会）を活用する（いろいろな遊びを教える機会に）。
- ・場所をつくるだけでなく、まわりの大人が見守ることも大切である。
- ・高齢者が自宅から近い場所のほうが活動しやすい。
- ・いろいろな趣味や経験のある老人を活用する。
- ・新しい施設をつくらなくても、今ある施設を充実していくことで対応する。
- ・親の教育の場や相談する場を設定する。
- ・放課後に子どもを預かる場を確保する。
- ・空き教室を活用する。
- ・保健師や医師の訪問は心強い。
- ・中高生については夜集まる場所が必要だが、大人が一方的に決めるのではなく、子どもの自主性を尊重することが大切。
- ・音楽をする場合などには、防音設備がある場所が必要になる。

次回のテーマは、小平市を「安心して介護が受けられるまち」にするためには。

くらしグループ

今の段階ではもう少し中身を検討していくべきでは。

セレクトするのか、いま出されているものを全部やっていくのか。

まとめはどのような形にするのか。こうあるべき、という提言の形でいいのでは。

今は優先順位をあまり考えずに出し合って、あとで整理をすればいいのでは。

グループのイメージの区分けにそって議論するといいのでは。

今回はコミュニティについて話し合う。

- ・防犯、防災には自治会がとても大切。自治会を活性化するにはどうすればよいか。
- ・自治会の役員に大きな負担がかかるので、なかなか引き続いて受けられない。
- ・何かイベントがあると、自治会づくりのきっかけになる。
- ・地域センターを本当のコミュニティセンターになるように。
- ・民生委員会会議を開いて自治会と連絡をとってもらおう。
- ・地域センターが自治会単位でいくつか包括して、自治会からお手伝いを出すなどして、一緒に運営する自治会ネットワークの拠点になってほしい。
- ・自治会を大事にする小平、というイメージはどうか。
- ・コミュニティセンター運営委員会というようなものはどうか。
- ・自治会を活性化するためには、会長が何年か続けてやることも必要。
- ・近所づきあいは、わずらわしくても、風通しをよくしないといけない。

- ・自治会づくりには、何かきっかけがあるとよい。
- ・マンションには管理組合があるが、地域の人との結びつきはどうすればよいのか。

今回は、勤労者対策。

まちグループ

課題の選出（今後の取り組み方、テーマ選び（小項目としての）、現状分析と問題点抽出）

- ・グリーンロード
- ・自転車のまち
- ・コミュニティバス
- ・ITを生かしたまち
- ・人材の活性化
- ・コミセン
- ・ガーデンシティ構想
- ・マンション問題
- ・街路・バリアフリー・景観
- ・花小金井活性化
- ・私有地・都用地の調査
- ・まちなみ条例

自然グループ

農のあるまちづくりをテーマに話し合う。

市民農園が5か所あるが、問題点としては、

- ・数が少ない
- ・農園の設備が充実していない。例えば、農具置場、トイレ、ベンチ、日除けテントなどが不十分。
- ・生産緑地を貸農園として利用できない。

（練馬の体験農園は、農家が農地、種、野菜づくりのノウハウを教えてくれ、気軽に市民が体験できる。これは子どもたちが土に触れる機会になっている。）

川沿いの落葉の処理をする近所の市民がたいへん。腐葉土としてリサイクルできるとよい。

リーダー会確認事項

〔議論内容の報告〕

ひとグループ

- ・「子育てしやすいまち」にするためにはどうしたらよいか意見交換。
- ・次回のテーマは「安心して介護が受けられるまち」にするためには。
- ・行政および住民がそれぞれできることを整理しようとしたが、なかなかまとまらず。

くらしグループ

- ・ 6テーマを設定し、各回1テーマずつこなすことにした。
- ・ 今回は「コミュニティ」について議論を深めた。

まちグループ

- ・ 議論を詰めるまでに、定例会に加えてグループ独自で集まる会（フリートーク）を設定。スケジュールを調整した。
- ・ 三鷹市民プラン21会議の進め方の紹介。
- ・ 市の都市マスタープランに書かれていることが非常に充実している。よって、テーマを絞って議論を詰めることに。
- ・ 3回目の宿題を踏まえて、テーマを整理。あわせて、「理想のまちの姿（キャッチフレーズ）」を検討することにした。
- ・ 「グリーンロード」と「コミュニティセンター」の議論について、各グループ間でのすみ分けをしたい。

自然グループ

- ・ 自分たちが関われる内容を検討していくことに。
- ・ 第1次、第2次総合計画ともにできていない内容を肉付けしていく。
- ・ 「農のあるまちづくり」をテーマに意見交換。
- ・ 今後、2～3回の議論で課題をあげ、8月に再度全体を整理する。
- ・ エコダイラネットワークが「市民版環境配慮指針」をだしている。市民として省資源・省エネルギーなどにどのように取り組んでいくべきかという内容。

〔調整事項〕

議論のまとめ方（提言書）について

- ・ 各テーマや課題について、具体的な解決策を検討する必要がある。
- ・ まちづくり会議終了後も、何らかのかたちで動くシステムづくりも含めて検討していきたい。
- ・ 9ヶ月程度の議論では現状把握ぐらいしかできない。期間は不足している。
市：総合計画の策定期間が決まっているので、やむを得ないところをお願いしている。各テーマを広く・薄く検討するか、またはポイントを絞って深く検討するのか、それをグループ間で調整して進めてほしい。
- ・ 同一テーマについては調整が必要。
- ・ 最終のまとめは、各グループでまとめたものをリーダー会で調整するか。
- ・ 第8回目で、全体のまとめを調整する。最後は44人の意見にしたい。
- ・ 三鷹市民プラン21の提言書を参考に話し合いたい。

テーマ調整

グリーンロード（都管理）について

- ・ まちグループは産業面での活性化も検討したいので、西武沿線を中心に。自然グループは全体を検討する。
- ・ 「グリーンロード推進協議会が存在する。トイレ・ベンチの設置などの活動を行っているので、その情報収集を行うとよいのでは。まちグループでは「小平市の将来像」も検討する。

コミュニティセンターについて

- ・ 暮らしグループでは、ハード・ソフト面の機能充実など全体的な提案をする。
- ・ まちグループでは、産業面での機能やIT機能を付加した施設活用を提案する（多機能型施設として、保育所や高齢者の集会所の他、IT活用による活性化など）。
- ・ 「コミュニティセンター」と「地域センター」の違いなど、位置づけの違いなども勉強する必要あり。
- ・ 三鷹市のコミュニティセンターをケーススタディしたらどうか。

活動情報

- ・ まちグループは連絡網を作成して活動している。
- ・ まちグループは、地域点検として、5/1(土)グリーンロードめぐりを行う予定。
- ・ 暮らしグループのTさん、まちグループに興味あり。Hさん5/1(土)の会を紹介することに。
- ・ 見学会等の情報は参加者全員に流す。決定したら連絡する。

〔リーダー会から市へ〕

審議会へのメンバー参加

Q：以前からお願いしている審議会委員におけるメンバー枠を設定してもらえないか。2人ぐらいの枠を特別枠として追加してもらえないか。全部で22名の委員にしてほしい。

事務局：委員の市民公募枠は4名。まちづくり会議メンバーの特別枠は設定しない。さまざまな団体からも同様の要望あるので、公募による参加をお願いしたい。

配布資料

Q：「市民版環境配慮指針（概要版）」を各グループに1部ずつほしい。

事務局：次回配布

Q：各種計画書・資料など、閲覧可能なところや貸し出しなどはどこか。

事務局：各図書館に計画書あり。ネットでも閲覧可能。コピーなら事務局で貸与できる。

〔市からリーダー会へ〕

オフィシャル以外の集まりを行う際、その際の検討結果などの情報を不参加の人にも伝えてほしい。

平成 16 年 5 月 15 日 (土)

第 5 回 各グループで決定したテーマについて意見交換。

ひとグループ

検討テーマ：小平市を「安心して介護が受けられるまち」にするためには

- ・介護保険では希望通りのサービスを受けられない。曜日が指定される。必要なときにサービス（預かり）を受けたい。枠にはまったとおりにしないといけない。
- ・介護保険は利用するまで手続きがたいへん。
- ・情報提供の方法、これで高齢者はわかるのか。
- ・ケアプランをたてる際に、ケアマネージャーにまかせきり。市はそれでいいのか。
- ・ごみの出し方、運動によりよくなった。
- ・ヘルパーの身分保障が大切。
- ・ごはんを対象者以外の分は作ってはいけない、ガラスふきはだめなど、厚生労働省の縛りがあり、ちょっとしたことが頼めない。
- ・同性介護を望む。
- ・まだ、サービスの提供体制が十分とは言えない。NPO 等の参入が望まれる。
- ・サービス量を増やせば、保険料があがるという制度がいけない。
- ・ケアマネージャーが少ないのはまだ始まってから時間がたっていないから。
- ・福祉関係従事者の賃金が少ない。男の人では、賃金だけでは暮らせない。
- ・利用者の声を生かすには、ケアマネージャーの増加（確保）が必要。
- ・厚生労働省の基準は実態とあわない。制度そのものに矛盾がある。
- ・介護保険は特別会計、市はがんばりようがない。
- ・窓口をもっとやさしくしてほしい。（隣の課へ行け、と言われた。移動に制限がある、身体が不自由な人のことも想定してほしい。
- ・昔は遠いところに施設を造ったが、これからは家族がいつでも行ける場所に。小さくてもよいから。
- ・法律が変わらないと市長が変わってもだめ。法を変える力を。
- ・市民の運動からできることもある。それをやる努力をそれぞれ市民がやることが大切。
- ・これから資格をとっておかないと。

- ・ヘルパーは男もいいと思う。風呂に入れたりするときは。しかし、賃金は安い。
- ・外国では社会福祉士になるのもたいへん。社会的信用もある。日本では資格をもっているだけではだめ。
- ・若い人も、自分も年をとることを考えてほしい。
- ・働いているときにはなかなかまわりのことがわからない。
- ・トイレ、着替え、食事はできるだけ自分でできるように。
- ・ぴんぴんころりで。
- ・パンフレットは年寄りにわかるようにしてほしい。
- ・現場の声を常に出していくという考え。市民も市も。上に声をあげていくように。
- ・ごみモニターなど、地域の高齢者を活用することも考えられる。
- ・介護についても隣近所の人がよくみるように。新聞がたまっているとか。
- ・地域には民生委員もいるが、すべてをみるのは無理。健康な高齢者が多いのだから、活用を。地域の力で。
- ・老人会はやることが決まっているから、活動が停滞している。今の高齢者はやりたいことをやりたいと考えている。
- ・世話をやく人が地域に必要なになってきたのではないか。昔はいたが。

くらしグループ

討議テーマ：勤労者対策（女性の社会進出など）～メモをもとに意見出し

保育所サービスなど女性が安心して働ける環境づくり、市役所の女性職員や女性幹部職などの拡大、男女共同参画推進条例等の制定 などの提案があった。

（詳細）

- ・保育所にきちんとあずけて働けるようにしたほうがよい。
- ・オランダのワークシェアリングは給料を減額しないが、日本は減額しようとしている。
- ・企業が社会的責任を果たすことが大事、労働条件の低下につながらないように。
- ・保育について、民間がサービス・施設を増やせるようにする必要あり。
ただし、市からの補助は難しいのではないか。
- ・シニアベンチャーによるコミュニティビジネスなども、子育てとあわせて考えられるとよい。
- ・市役所の女性職員が増えると、女性の立場で支援を考えてもらえるのではないか。
- ・子育て支援の信頼できる機関が必要。
- ・条例も制定して推進する必要がある。
- ・法律があってもそれを厳しく指導するところが弱いのだろう。

次回テーマである「消費」についても意見交換。

商店街の活性化の必要性や消費者サービス向上のための市と商工関係者による取り組み

が必要という意見が相次ぐ。

(詳細)

- ・小平は大型店なく、中小商店が中心。立川、新宿へ流れる。商店街もさびれている
商店街の振興計画が必要
- ・量販店と価格差が大きいとき、消費者がまちの商店を選ぶ心理になれるか。
- ・商店街の空き店舗を利用して、生活相談所など開設したほうがよい。
- ・市が消費者サービス向上のための施策を講じたほうがよい。
- ・市としての商工業振興の政策弱い。
- ・ルネこだいらの下の商店街の空き店舗で「チャレンジショップ」2店舗はじまった。
- ・学園町 80 店舗中、25 店舗くらいが空き。
- ・まちぐるみで商店を育てようという市民の意識を育てないといけないのではないか。
- ・商店街・商工会などが消費者への細かいサービスに目覚めるべき。
- ・空き店舗活用なども、行政や弁護士などが入らないと難しい(入ってほしい)。
- ・普通の量販店で買うより、濃いコミュニケーションを持ちながら商売がやっていけるはず。

まちグループ

提言 ・『理想像』と『問題解決の提案』の2つを提言したらどうか。

- ・問題を乗り越える方法(策)検討。
- ・まちづくり市民会議終了後も動ける体制・組織づくり
理想像に近づく策を实践できないか。
- ・それぞれのギャップ解消、効果的な方法 はじめの一歩づくり。

市民・住民運動に必要なこと

- ・一人ひとりの情報発信と情報共有(問題、事例の紹介)。
- ・共有したい情報の例 三鷹市環境配慮制度(業者への開発前の遵守要求)。

都市計画・マンション問題 (Hさんの発表をふまえた意見交換)

- ・法律、規制等の知識の必要性。
- ・大学等の学識者を巻き込むこともひとつの策。
- ・住民は問題に直面して初めて立ち上がる。
- ・あらゆることに“住民参加”を位置づけることが最重要
住民がいかに力を尽くすか。
- ・関係者のギャップ解消の手段をどれだけ用意するか 有効な手段の提案。
- ・市はタテ割りの組織による市政を実施 施設・センターなど、意図した機能が
発揮されていない。
- ・ガバナンス(統治)機能に市民が組み込まれていない。

- ・『まちづくり条例策定』をひとつの柱に入れたらどうか。

グリーンロード（5 / 1（土）の分科会をうけて）

提案 水辺の創造、農家との連携（農作物の販売）、自然観察園に、計画、予算化を行ってほしい、住民活動を即刻立ち上げたい。

（宿題）

- ・各自、興味あるテーマの提案内容（たたき台）を提出。
- ・定例会による議論のうえ、2～3人のグループでまとめる。

自然グループ

テーマ決定：「農」「水辺」「緑」にしぼることに

担当：農 - T（農園）、水辺 TA（子どもの遊び場）、I（玉川上水、野草）、緑 - M（落ち葉、水遊び）、T（道路の木々）、全体 W

スケジュール 6 / 14（月）までに案の提出～ 農について

7 / 17（土）までに案の提出～ 緑について

8 / 7（土）臨時の会議～ 水について

8 / 21（土）まとめ の調整

9 / 18（土）発表

リーダー会確認事項

〔サブリーダーの参加〕

まちグループのサブリーダーが参加。

〔議論内容の報告〕

ひとグループ

- ・他グループの分科会 - 日程があれば参加意思あり。
- ・毎回テーマを決定して検討をすすめている。
- ・介護保険について、メンバーの体験をもとに意見交換（現状・問題点、解決策の検討）。
- ・次回検討テーマは、元気な高齢者の活用、生涯学習（生きがい創造）、商店街に於いての活動・人材活用など。

くらしグループ

- ・勤労者対策と消費生活を検討。
- ・勤労者対策：小平アクティブプラン21（男女共同参画）の紹介と要望。
- ・消費生活：空き店舗とITの活用、双方向の情報ネットワーク環境、それに対する市の支援と、全国中小企業団体中央会の補助、2店のチャレンジショップの取り組みなど情報共有

まちづくり憲章・まちづくり条例の提案（同種の商店のダブリ解消）。

- ・他グループのテーマと重ならないようにテーマ絞って検討。

- ・テーマごとに担当、まとめを実施。

まちグループ

- ・メンバーの活動発表（マンション問題）

条例化について「まちづくり条例の作り方」（野口和雄さん著書）/他市の動向など紹介。

小平でも開発指導要綱を条例化する動きがある。

- ・5/1（土）分科会（グリーンロード）の感想・提案発表。

- ・今後の継続的な活動づくりや提言における理想像の提案、提言のまとめ方などの意見交換。

- ・次回分科会（5/29（土）美園地域センター）にて。コミュニティバスとコミュニティセンターの検討を予定。

自然グループ

- ・緑・水・農の3つのテーマに絞ることとし、当初事務局より分担されていた衛生などについては議論の対象としない（自分達のやれることを重視して、テーマを絞る方針）。

- ・9月の提言まで時間がないことから、規定回数よりも一回多くする（8/7（土）に「水」のテーマ）。

- ・6月19日（土）（市民農園のテーマ）、7月17日（土）（緑テーマ）とし、それぞれタキ台を作成する担当者が決まる。

- ・まちづくり条例の制定に向けた動きがあるとの情報提供があった。

〔調整内容〕

- ・それぞれに活動してきたベテランの方がもっている情報などを共有したほうがよい。

次回からリーダー会で情報提供してもらおう。

情報提供その（情報提供・発信を目的としたNPOの存在）

- ・グリーンロードは「まち」と「自然」にまたがる内容だが、グリーンロードを捉える際に、公園緑地的側面と地域振興的な側面がある。

「まち」は後者の議論を進めている。「自然」が前者を扱うか扱わないかを検討する必要あり。扱う場合、「まち」と調整するか？要検討。

- ・それぞれが提案している「まちづくり条例」の内容と、市での条例化の情報について整理が必要。要検討。

総合計画課の広報誌「こまちだより」4月号で都市計画（開発計画）における条例化の動向を紹介。

- ・8回目の全体会にあわせてグループそれぞれにまとめを行っている。（当初のスケジ

ルールで、第8回まとめ、第9回まとめ / 各グループ発表となっている。どの段階で提言書全体の調整をするか？第8回のまとめの前にリーダー間で中間の調整する必要はないか？要検討。

〔リーダー会から市へ〕

- ・このワークショップへ職員の参加、職員からの説明が実現できない理由は何か？市民有志の独自の活動から提言を出すというのがこのワークショップの基本的なスタンスなので、必要資料の提供はできるが、それぞれの活動の中で情報の収集などは工夫してほしい。

平成 16 年 6 月 19 日 (土)

第6回 各グループで決定したテーマについて意見交換・とりまとめ。

ひとグループ

検討テーマ：「生涯学習（生きがいの創造）」について

生涯学習を盛んにするためには

- ・市内に住む「人材」を登録して活用する。（人材バンク）
 - ・介護する家族がいる場合でも、気軽に外出できる環境をつくる。
 - ・男性があまり積極的に地域活動・生涯学習に参加しないのであれば、その人たちの声を聞いて、参加しやすい環境をつくる。
 - ・男性が自己主張をしたいということであれば、講師にすることも方法である。
 - ・近くに集まれる場所を整備する。（地域センター、公民館、図書館など）
 - ・自治会も生涯学習の機会として利用する。
 - ・地域の資源として、放送大学や市内の大学の公開講座等を利用する。
 - ・リーダーの養成が必要となるが、同時に、その人の負担を軽減する工夫も必要になる。
- 次回のテーマは、「健康づくり」について、まとめ方について

くらしグループ

「防犯・防災」について議論

- ・自主防災会等の充実や活性化の重要性が指摘された。
- ・そのほか、消火栓の位置や使い方などの市民への広報周知の徹底、区画道路の整備やオープンスペースの確保、防災に関する市のリーダーシップの発揮を求める意見などが出された。

「文化のまちづくり」について議論

- ・「美しくやさしい文化のまちづくり」をコンセプトとした、美しい街並み形成、都市観光

振興、コミュニティビジネス振興に関する提案が出された。

- ・子どもがふるさと小平を意識する文化環境の創造や、市としての国際交流・国際貢献(海外ボランティア)の展開、市内の文化人・知識人・専門職業人など多彩な人材の活用などが提案された。

今回は、テーマ別検討の最終回として「その他」の意見を出し合う。

まちグループ

三鷹市職員による環境配慮制度の説明・意見交換（14:30分ごろまで）

テーマごとに各担当者のたたき台（概要）を説明・意見交換。

理想のまちの姿について

- ・ガーデンシティ構想として、基本視点（多摩の自然を生かす／地域の特徴を出す／少子高齢化に対応／生産農家との共存共栄／大学との連携／誰でも自分らしく地域で暮らす） 提言内容（区域の設定／具体的な施策など）を整理。
- ・計画の課題（少子高齢化／産業衰退／情報IT化等への対応）と課題解決（民力の活用／IT化社会に向けた学習支援体制づくり）を整理。

コミュニティバスについて

- ・コミュニティバス路線拡充の実現として、現状、交通の空白、不便地域対策（アンケート結果の報告） 循環バス導入に向けての提言（公共性からの実現要望） まとめ（市民生活の確保／採算ではなく公共性重視・広報活動による多くの市民意見把握）を整理。

（意見）・市民による手づくりバス路線の実験をしたらどうか

- ・アンケート意見を反映させることが重要
- ・地域の平等性をどう保つか
- ・すぐにできることなど、市民の要望にどう応えるか

駅ごとにカラーのあるまち・テーマのあるまち - 中間報告

街並み・景観について - 中間報告

自然グループ

”農のある街づくり”について検討 T氏よりタダキ台の発表

〔決定事項〕

- ・市民菜園等の適正管理の徹底については、本来、行政だけに責任を問うものでなく、市民自らが関与すべき問題である。このように、農を維持していくに当たって、問題によっては市民の主体的、積極的関与の必要性がメンバー間で確認された。
- ・農のあるまちづくりを実現するための具体策は5項目提示されたが、優先順位等を加味

した上で素案を作成し、再度提示予定。

- ・書式は初回の WS で提示されたまとめ用の書式を用いることが決定。

リーダー会確認事項

〔議論内容の報告〕

(ひとグループ) 4 名出席

- ・生涯学習について検討を行った。
- ・内容は、生涯学習と教育の違い / 趣味的または文化的活動など幅の広さや各世代のニーズの違い / 利用しやすい環境 (施設、参加しやすい雰囲気、しくみ) など。
- ・小地域でのコミュニティ複合施設 (まちグループでも議論) や防災面 (くらしグループでも議論) についても触れられた。

(くらしグループ) 7 名出席

- ・防災・防犯のまちについて検討を行った。

新聞記事より、自主防災組織の存在 / 自主防災施設を年に数回点検活動 / 市からの補助あり / 女性消防隊が 24 組織もあるなどの紹介があった。

避難場所など施設表示がされておらず、住民に意識されていない。

災害時の道路環境 (街路樹や幅員など) を見直す必要がある (地域防災マップを再確認する)。

住宅建築の方針づくりなどによる対策も必要となる。

自主防犯・防災組織の活性化として、自治会との連携などが必要である。

江東区・江戸川区の例 (海外から視察に来るような先進的取り組み) のような、外からも注目されるようなまちづくりが必要との意見が出た。

- ・文化のまちづくりについて検討を行った。

文化的な史跡を大切にする視点について。

街路樹のデザイン・道路の美化について。

活気ある商店街づくりについて (SOHO・コミュニティビジネス・ベンチャービジネス、空き店舗活用など)。

まちグループメンバーも景観・商業について提案していきたい (紙ベースでやりとりする)。

(まちグループ) 9 名出席

- ・三鷹市職員による「環境配慮指針」の説明を 1 時間半ぐらい行った。

三鷹市においては、環境配慮説明・周知によって、開発協定締結の動きをつくった。

業者の自主的な環境づくりを努力義務として行ってもらう内容とのこと。

- ・国分寺市における、住民発議により地区計画づくり (6 / 19 の新聞) が紹介された。

- ・また、まち全体の将来像とコミュニティバスについての意見交換を行った。
(自然グループ) 5名出席
- ・農のあるまちづくりの検討を行った。
- ・市民が農に親しめるまちづくりのたたき台として、いきがい菜園や市民菜園、学童菜園などがあることを理想にしている。

自宅から10分程度の範囲にあり、施設充実(トイレ、ベンチなど)と自主管理体制の確立による運営が必要との意見交換を行った。

また、利用者同士の交流づくりや指導員制度の導入、市民農業大学、体験型菜園の確立について、担当者自らが得ている海外・国内事例の紹介を交えて意見交換を行った。

〔調整内容〕

提言書のまとめ方について検討

- ・提言書は製本化し、公開できるかたちにする。
- ・調整が必要なこと。

誰がどのようにまとめるのか？

手書きか、パソコン打ち込みにするのか？

各々のグループの内容と全体の内容をどうするのか？

グループでまとめる内容は「理想の姿」「基本的な姿勢」「具体的な方法」の3つか？

- ・現状では、第2回に示された<書式3>のたたき台に則っていくグループと、独自のまとめ方を行っているグループがある。
- ・三鷹市や国立市のスタイルを確認後、どのように調整するか判断したい(国立市の市民提言書を入手する：Tさん担当)
- ・編集会議を行うこととする(7/10に会議室を予約し、14:00から2時間程度、リーダー4名中心)

リーダー間で方針(たたき台)を調整してから各グループメンバーに諮り、それぞれグループの方針を決めることとする。

平成16年7月17日(土)

第7回 各グループで決定したテーマについて意見交換・とりまとめ。グループごとのまとめ方。

ひとグループ

検討テーマ：「健康づくり」について

- ・無理なく長く続けられる健康づくり活動を(軽い運動でも継続することが大切。)

- ・自殺も増えている。心の健康を
（心と身体健康づくりでは、ストレスをためないようにすることが大切。）
- ・食事からはじめる健康づくりを
- ・子どもの頃からの正しい生活習慣、食事習慣を
（子どもの就寝時間が遅くなっている。）
- ・必要な人が健康診断を受けられるように
（病気の早期発見は、医療費削減にもつながる。）
- ・公衆衛生に力を入れて、健康に暮らせる環境整備を
（個人にできることもあるが、行政のすべきこともある。）
- ・子どもの発達に応じた情報提供（母親フォロー）を
（健康づくりの啓発には保健所の役割も大きい。祖父母と暮らしていない、近所づきあいが無い、などの理由による母親の知識不足。）
- ・子どもと親に対する一体的なアプローチを
（学校・家庭の連携、位置づけが大切。）
- ・自動販売機（酒、たばこ、ジュース）の弊害
（「便利」には「裏」がある = 子どもが簡単に「余計なもの」を入手できる。）

くらしグループ

コミュニティについて Y氏よりたたき台の提出

- ・コミュニティ施設への専門人材の配置、運営への住民参加の必要性などが追加提案された。

安全・安心について K氏、K氏、U氏よりたたき台提出

- ・自主防犯防災組織の設置、学校教育での防災教育、ネットワークづくりなど3人の提案を総合して、取りまとめられた。

消費者対策について

- ・消費者の立場に立ったまちづくり施策の必要性や、商店街振興の取り組みの現状と課題について意見が出された。消費者の利便性向上の視点に立って、提案をT氏が取りまとめ。

文化振興について T氏、K氏よりたたき台の提出

- ・自然や歴史、芸術文化、市民文化など、中テーマを設定し、それぞれ分担を決めて、次回、たたき台を提出する。

次回のテーマは、1)テーマ別提案内容の確認と、2)調整が必要な勤労者対策(T氏担当)及び文化振興の検討を行う。

まちグループ

テーマごとに各担当者のたたき台を説明・意見交換

「1 基本的視点」、「2 提言項目」、「3 提言内容」の構成でまとめを執筆。

都市計画について

- ・計画段階から周辺地域の住民に各種情報を伝えてもらう手段・機会が必要。
- ・計画に住民の意向を反映することが一番重要。

理想のまちの姿について－中間報告

- ・基本的視点は、「多摩の自然を生かしたまち」「少子高齢化に対応できるまち」「SOHO テクノガーデン構想を実現するまち」。
- ・グループ提言のカバーとして出すことにする。

IT 活用について〔改訂案〕 中間報告

- ・素案内容に「基本的視点」の6つを追加、その他修正。

自然グループ

” 緑あるまちづくり ” について検討 T 氏よりたたき台の発表

〔決定事項〕

- ・緑あるまちづくりの前提として、CO₂を増加させる原因（交通量や工場・家庭の電力消費量の増加、ゴミの焼却、樹林・林・緑の減少）に言及すべきとの意見が出たが、緑あるまちづくりの具体策としては、次の6項目に意見が集約された。

車はエコカー

木陰を歩きたい

緑地・公園の緑は質を良く

学校農園・生活圏から10分以内の農地

庭・生け垣など一般世帯の緑

水源地の植林協力

今後、もう一人の担当者の内容も踏まえてまとめる。

- ・市民参加・市民意向等を市側が受け取る仕組み（条例制定や窓口の設置など）を確保してほしいという内容を、全体提言として入れてほしい。

今回のテーマは、「水」について議論を行う。

リーダー会確認事項

〔議論内容の報告〕

（ひとグループ）5名出席

- ・提言項目（案）について、特に異議はなかった。
- ・前回欠席者も多かったことから、今回も生涯学習の検討を少し行った。

- ・ さらに、今日のメインである「健康づくり」について議論した。
- ・ これまで議論した内容の担当を決めて、文章化することにした。
8/7の13:00~17:00に集まり、検討する。
リーダー会での報告には間に合わない。
- ・ まとめ方は、書式3の「理想の姿」「実現に向けての方針」「具体的な方法」にしている。

(くらしグループ) 7名出席

- ・ 提言書全体の確認とグループ提言検討を行った。
- ・ 8月までグループの検討をすすめ、9月は提言書全体の検討を行うことを確認した。
- ・ これまで検討内容を書式3に落とし込み、7月末までにそれぞれの担当内容をインテージに提出することにした。
8/7のリーダー会での調整までに提出できるようにした。

- ・ 現在、グループ総括とT氏担当テーマが残っている。
- ・ 8/21定例会に再調整を行う予定にした。

(まちグループ) 10名出席

- ・ 都市計画、理想のまちの姿、IT活用について議論した。
- ・ 各テーマ、7/31までに原稿をつくる予定となっている。
- ・ カバリング(グループ総括)として「理想のまちの姿(T氏担当)」を掲載することにした。

(自然グループ) 5名出席

- ・ 「水」と「緑」と「農」の3テーマで進めている。
- ・ 8/7のリーダー会には、「緑」と「農」の内容は提出できる。

〔調整内容〕

~提言書について検討~

表紙タイトル・目次案について

- ・ まちグループより、表紙の「マスタープラン」という言葉は、決められた言葉で使えないとの意見が出た。
サブタイトル的なものを入れたらどうかとの意見があった。
- ・ 「小平市まちづくりワークショップからの提言」はあったほうがよいとの意見が出た。
- ・ 「」の市民会議全体の提言として、「市民提言等を受け取る市側の仕組みを確保する」という内容を出してほしいとの要望が自然グループから出された。
具体的には、まちづくり条例(国立市の市民参画条例の例)や市民参加条例、窓口の確保などが提案されていた。
提案者(自然グループS氏)に執筆交渉をする。その文面は、後日リーダー会で

検討・調整する。

- ・ 「小平市の概要」は、読む人が市の概要（人口・財政・面積等）を理解できるように、まちづくり懇談会の資料を挿入したらどうか。

入れることにする。

- ・ 最後の「協働のまちづくりに向けて」は、これから先の動きについて編集後記的に書くか、各メンバーに一言コメントを任意で書いてもらったらどうか。

グループ提言がまとまり次第調整する。

グループ提言の内容について

- ・ 各グループのまとめ方がそれぞれ異なる。
それぞれのまとめ方を尊重する。
- ・ カバリング（グループ提言総括）を載せるかどうか。
各メンバーに確認、検討する。

平成 16 年 8 月 21 日（土）

第 8 回 各グループで決定したテーマについてまとめ。

ひとグループ

「子ども」について

- ・ 幼児期と学童期を一緒にしたらどうか。（検討する）
- ・ 学童クラブの職員は嘱託である。（労働時間の制限あり）

「介護」について

- ・ ホームヘルプサービスを利用している人たちの集まりがあるとよい。（病院の患者会のようなもの）
- ・ 同性看護の必要性がある。

「健康」について

- ・ 煙草の害をもっと広くアピールしたらどうか。

「小平市に理想のまちをみつけない」について

- ・ ガーデンシティという言葉を他の言葉としたほうがよい。（ガーデンだとつくられたような印象になる）

くらしグループ

グループ提言の内容確認と最終修正、提言全体について確認を行った。

「コミュニティ」について

- ・アイデアの1自治会協議会を自治会連絡会とする。
 - 「安全・安心」について
 - 「勤労者対策」について
 - 地元住民の視点からの商店街振興策について
 - ・コミュニティ美術展の記述で、「公民館」を「地域センター等での」とする。
 - ・Tさんの視点、まちづくりと消費者行動の内容を加味する（8月中に取りまとめ）。
- 提出物と今後のスケジュールについて確認した。
- 「ワークショップ44人からの一言」について、各自、原稿を作成し8月中に送付する。
- 9月18日（土）定例会は、全体会とし、提言書を全メンバーで議論する。9月いっぱい
で文章化し、市長に提出する予定である。

まちグループ

グループ提言の内容確認と最終修正、提言全体について確認を行った。

提言書全体について

- ・市の冊子として出されるならば、全体の書きぶりの統一が必要ではないか。
- ・市が提言をどのように受け取ってもらえるのか、明確にしてほしい。
 - 「理想のまちの姿」について
- ・グループ提言要素の積み上げの内容を挿入したらどうか。
- ・「区域」を「小平市全域」とする。
 - 「交通」について
- ・小平霊園周辺や青梅・府中街道の渋滞について、具体的に入れる。
- ・鷹の台駅周辺問題を入れてほしい。
 - 「IT活用」について
- ・小中学校の施設を利用したPC教室等、自由な学習環境づくりを入れてほしい。
- ・市民が抱える課題やメリットについて、主なもの3つ程度を打ち出した内容としたらどうか。
- ・高齢者に対して、何が便利で何が良いのか、どこに行けば使えるのか等をわかりやすく書いてはどうか。
- ・以前、Hさんから出された提言内容を加味する。
 - リーダーとサブリーダーとで調整する。

自然グループ

”緑あるまちづくり”の修正版について確認し、グループ提言全体のまとめを行った。

「緑あるまちづくり」について

- ・ 1 . 緑を守り育てる条例をつくるの(2) 建ぺい率の抑制とあるが、具体的にする。
- ・ 2 . 緑を守り育てるガイドラインの中の(3) 道路の下に大きな空間をつくるということ
を明確にする。
- ・ 3 . 生け垣や巨樹・巨木の保存の(2) 個人庭園・生垣などの好例の表彰について、具
体的にしたらどうか。
- ・ グリーンボランティアについては、踏み込んだ文言が必要である。全くのボランティア
の人もいれば、シルバー人材センターから有料で来ている人もいる。
- ・ 7 . 市民と行政が協働して緑を育てるの(7) 公園ボランティアの連絡会をつくるとい
う内容を追加してほしい。
「農のあるまちづくり」について
- ・ の具体策で、3 農産物の地産地消の徹底の推進の(2) 市内循環バスと野菜共同スタ
ンド販売所との連携については、路線バスを増やしていかないと広まらない。
- ・ 生ごみの堆肥化について、学校給食に設備を設置 堆肥を農家に返す 野菜を作るとい
うサイクルが必要である。
- ・ 市民農園は自宅から歩いて 10 分位で 40 区画ぐらいが適当である。

リーダー会確認事項

〔提言書(たたき台)について各グループ意見確認と方針検討〕

表紙

- ・ 小平を「こだいら」にする提案あり。
- ・ サブタイトルは、最も強い主張を表現したい。緑や住民参加、バリアフリーなコミ
ュニティシティ小平など。

サブタイトルは、9月4日までにリーダーが案を出し合い、決定する。

例 魅力ある街づくりの実現に向けて、魅力ある街づくり推進のためになど。

- ・ 「こだいら市 市民提言書」は2段で表示する。

目次

- ・ ひとグループ、くらしグループ、計2人減で36人に訂正。

「小平市に理想のまちを見つけたい」について

- ・ 強い表現が欲しい。決意表明的なもの。 詩だから、このままでOK。
- ・ 「愛しむ」を「いつくしむ」にすると読めるが意味が分からない人がいるから、意
味が分かる「愛しむ」に戻す。
- ・ 自然という記述について、「武蔵野の自然」とする。
- ・ 「いつくしみ多きガーデンシティ」を「愛しみあふれる」とする。「ガーデンシティ」
は保留する。
- ・ 「健やかに育つ」を「健やかに育ち高齢者が安心して暮らせる」とする。
- ・ 「かえりみられず～」からの表現は、「必ずしも住む人たちの意向や意見は尊重され
ず、往々にして行政主導の計画が進められてきた。」とする。

- ・ 「とかく形式が整えばよしとする」は削除する。
- ワークショップ「小平市まちづくり会議」からの提言について
- ・ 「小平市は・・・提出します」を経緯とスケジュールの冒頭に持っていく。
 - ・ 「私たちワークショップ「小平市まちづくり会議」は第3次長期総合計画に向けて提言を致します。」を作成し、「私たちの提言が」からを「この提言が」として続ける。途中「先に申しあげましたように」は削除する。「一方」を「更に」に変え、「思います」までを続ける。最後の「当ワーキング・・・」は「私たちは以下にまとめ、小平市に提言いたします」とする。ここまでが冒頭。
 - ・ 年号は西暦とする。
- (ひとグループ) 提言について
- ・ 「理想のまち」の文末表現は「～のまち」で統一する。
 - ・ 「子育て」について、幼児期、学童期を一緒にする案が出ている。担当者同士で調整中。
- (くらしグループ) 提言について
- ・ コミュニティセンターの説明を注としてつける。
 - ・ 商店街振興のテーマの「理想の姿」内容を再検討。担当者と調整する。
 - ・ 「くらし・文化」というテーマは「文化」とする。
- (ひとグループ) 提言について
- ・ テーマ1：ワクワクするまち・こだいら市をコラムとして表示する。理念的なところ、具体的な提案内容にわけ。
 - ・ IT活用については、用語解説をつける
 - ・ グリーンロードについては、Kさん(グリーンロードのガイド)と内容を調整する。すでに行われていることもあるとの事。9月4日に出席を依頼する。
- (自然グループ提言) について
- ・ 「緑のあるまち」は、前段変更予定。その他微修正あり。
 - ・ 野火止用水から「水」を考えるは、図を削除。担当者が文章全体に修正を入れる。
 - ・ 「農あるまちづくり」は、「農のあるまちづくり」に修正。
- ワークショップ参加者メンバーからの一言
- ・ 50～200字/人(2行～6行/人) 名前入りとする。8月中旬に掲載する。
- 奥付について
- ・ 「発行」という文字を「事務局」とする。
- 9月18日最終回の進め方について
- 時間は基本的に、14:00～16:00。伸びることもありうるとする。
- ・ 18日に完成版の提出はしない。
 - ・ 最終稿を全員に事前配布しておく。当日、全員読んでいる前提とする。
- 〔タイムスケジュール〕

- | | |
|--------------------------|------|
| 1：全体構成の説明。サブタイトルの確認・報告 | 20分 |
| 2：提出方法、広報の方法、その他市への要望の説明 | 20分 |
| 3：全体と各グループの意見交換、各20分とし、計 | 100分 |
| （16時までとし、後は自由とする。） | |

- ・ 当日の質問への回答はリーダー会に一任していただく。

平成16年9月18日（土）

第9回 提言書についての意見交換（全体会）と今後の活動の確認。

全体会

<リーダー会からの説明>

提言書全体構成の説明（Hまちグループリーダー）

- ・ はじめに、「小平市に理想のまちを見つけたい」
- ・ として、ワークショップ「小平市まちづくり会議」からの提言
- ・ として、小平市の概要
- ・ として、各グループ提言
- ・ として、ワークショップ「小平市まちづくり会議」関連資料

1に経緯とスケジュール、2に参考関連資料、3にメンバー表・メンバー構成内容

- ・ 最後に、「ワークショップ36人からの一言」

市への要望書の確認（要望書の説明）（Tくらしグループリーダー）

提言書として厚い冊子できたが、審議会でどう扱われるかわからないので、市へ次のことを要望したい。

- ・ 審議会への配布
- ・ 市議会議員への配布
- ・ 市職員への配布
- ・ 市担当者への説明
- ・ 閲覧コーナーへの設置
- ・ 市報、市ホームページへの掲載
- ・ マスコミへの広報

提言書提出後のスケジュールの説明（Hまちグループリーダー・H副リーダー）

提言書提出までのスケジュールと今後のフォローアップについて提案をしたい。

(1) 提言書提出スケジュール（Hまちグループリーダー）

9/18 最終ワークショップ、

9月下旬 リーダー会による提言内容修正・最終確認、フォローアッププランの作成

9月終り 提言書の印刷

10月上旬 市長へ正式に提言書提出（提出は、リーダーが代表して行う）

10月中 市長への提出後、メンバーへ提言書配布

- ・その後、ワークショップは解散する。
- ・みなさんの要望や賛同があれば、任意に活動継続のための組織を発足する（リーダー会から提案）。

(2)今後のフォローアップ（Hまちグループ副リーダー）

提言書のフォローアップのため、任意の組織発足を提案する。参加は、有志とする。

連絡網の作成（メーリングリスト（無料）、FAX、郵送など）

第三次総合計画基本構想策定審議会のウォッチング

- ・審議会を傍聴し、主にワークショップ提言内容の取り扱い・審議状況について、参加者へ伝達する。
- ・審議状況は定期的なニュースレターとして配信することを検討する。
- ・市からも情報をもらう。

<意見交換>

- ・全体提言内容及び4つのグループごとに、15分ずつ、計75分間意見交換を行う。
- ・提言書（案）は事前配布されたので、一読していることを前提に意見交換を行う。
- ・今日は意見、要望を出していただき、この後のリーダー会にて、その取りまとめ・方針を検討し、報告とする。

全体提言内容について（Hグループリーダー）

- ・表紙をひらがなの「こだいら市」とするか、正式名称「小平市」とするか。

漢字のほうが良い。

ひらがなで表記している例もある（三鷹など：「みたか市民プラン21」）。

市を取って、「こだいら」としたらどうか。

「こだいら 市民提言書」はどうか。

サブタイトルは「理想のまちを見つけない」でよいか。

（挙手の結果）「こだいら」案が多数。決定。

「こだいら 市民提言書」（2段にして表示）が多数。決定。

サブタイトルは、このままでOK。

- ・グループごとに、提言分量に差がある。
まちグループが多いが、グループごとの標準があったわけではない。
量の自由度があるとは知らなかった。
当初、市よりフォーマットの案内はあったが、グループで任意に決めるということで現在の分量となっている。
- ・サブタイトルはどのように決められたのか。
最初は全員にひとつずつ出してもらい投票しようとしたが、時間の関係でできなかつ

た。

一部から出た案について、リーダー会にて新たな案や考え方を含めて検討した結果、現在のようになった。

- ・ひとグループNさんより、事前に意見を提出したが、どのように扱われているのか。
例) 子供 子ども、障害 障がい、等への修正
検討は間に合っていないので、今日この場で皆さんに対して提案してほしい。
- ・理想のまちをみつきたいという詩、たいへん良い。市の他の資料にも利用してほしい。
要望として、市関係者へ伝えていきたい。
- ・全般に、数字や 数字などの法則が混乱している。統一する必要がある。

ひとグループ

提言内容について (グループリーダー)

「子育て」が2つ、「介護」、「生涯学習」、「健康」の5テーマでまとめた。

- ・テーマ1・2:「子育て」は幼児期と学童期に分けてやったので、「子どもの権利条約普及と推進」については、学童期にも入れてほしい。
- ・学童と幼児期を分けるのではなく、統一テーマとしたらどうか。子どもの権利条約、児童憲章なども入れるべき。
- ・テーマ3:「介護」の1、「ノーマライゼーション」というカタカナは平易な言葉にしたらどうか。横文字にするならば、脚注をつけてほしい。
- ・テーマ5:「健康づくり」について、食のあり方をもう少し前面に出してほしい。医食同源という言葉もあり、食事を大切にする視点も盛り込んでほしい。

くらしグループ

提言内容について (グループリーダー)

「コミュニティ」、「安全・安心」、「勤労者対策」、「消費者」、「文化」の5テーマでまとめた。

- ・テーマ3:「勤労者対策」は、むしろ国の対策。市に対する要望としては、やや弱い。
- ・テーマ2:「安全・安心」の1つ目「警察は発生犯罪に対する取り組みに重点を置き、防犯に対する・・・」が編集されて、執筆者の意図と異なっている。
文意を元に戻し、修正する。
- ・テーマ4: 消費者の視点から見た商店街、大型店舗の出店規制の条例を提案書に入れてほしい。
商店街が独自性をもつというトーンにしたらどうか。

規制をすれば、活性化するという考えには賛成できない。

個々の商店会や経営者の強い意志が必要である。

花小金井では成功している事例もある。

大型店の進出を規制する一方、大型店による活性化という考えがあり、意見を統一するのは困難である。

- ・ テーマ1：「コミュニティ」は「コミュニティ」という言葉の使い方がしっくりこない。「共同社会」に置き換えられないか。
市からの提案の「コミュニティ」という言葉や「コミュニティセンター」ということから利用している。
- ・ テーマ1：「コミュニティ」では、自治会活動が高く評価されているようだが、実態は必ずしもそうではない。活用は容易ではない。
現在、組織率約50%。これから自治会を育てるという提案で、活性化により防災など安全・安心面にもつなげるという考え方である。
- ・ テーマ4：消費者の視点から見た商店街、「やる気のある商店街に重点配分をする」ことについて、「やる気」の評価をどのようにとらえるのか。
やる気は皆ある。それだけではだめ。
気持ちだけではなく、成功の可能性の高い事業計画が必要である。
受け取り方がさまざまである。削除したほうが良い。
がんばっているが結果が出ない人を助けられるような仕組みとしてほしい。
項目は残す。
「やる気」という言葉の問題であるので、「やる気」を取る。
「重点配分」は、行政として問題である。
「やる気」の判断や「重点配分」についての注釈をつける。
「消費者や専門家を巻き込んで・・・」とする。
リーダー会で、市民の立場で検討する。
- ・ グループや個人に任せているものを勝手に直してほしくない。
- ・ テーマ2：「安全・安心」では、市民が自らの責任で守り、自治会等で助け合うとあるが、災害が発生したときなどは行政の役割や対応が必要である。
- ・ テーマ2：「・・・の施設」は不要
- ・ テーマ2：4の「サービスが差別化になっている」の意味がよくわからない。
- ・ テーマ1：地域センターとコミュニティセンターの違いや役割について注釈が必要である。

まちグループ

提言内容について（グループリーダー）

はじめに、修正個所の連絡

「最右翼」という言葉の修正。

出典：「基本計画」「基本構想」。

これからの花小金井、「小金井街道にネーミングを」の次にスペース挿入する。

差し替え文章（配布済み）。

- ・テーマ2：「都市計画」の文体をそろえてほしい（敬体・常体）。
- ・「～していただきたい」などは不要である。
- ・テーマ2：「都市計画」3の人口減少の内容は全国か、小平市か。誤解される恐れがあるので明確にする。
- ・テーマ3：「景観・街並み」などの道路関係について、地図などを載せてほしい。
参考文献を載せている。
参考文献は、各項目のほうが見やすい。
市民は、参考文献など見ない。地図を載せたほうがよい。
地図掲載については検討する。
- ・テーマ3：「景観・街並み」の「自然再生」という言葉は一般的ではない。
- ・テーマ3：「景観・街並み」の地域の「特殊性」とあるが説明が必要である。
玉川上水などが「特殊性」である。
気がつかないがちょっと手を加えればよくなる（例：野火止用水）。
- ・テーマ4：「交通」と、テーマ5：「コミュニティバス」は統合したらどうか。
- ・車道は、市が補修管理をしてほしい。私道は9割補助だが、地権者が多いと申請が困難である。

自然グループ

提言内容について（グループリーダー）

人数が少ないので、自分たちに提言できるところしかやっていない。「提言にあたって」という文章に、グループの気持ちを書いた。緑に関する活動を長年やっている人が多かったので、市でできることと、できないことを理解した上での提案とした。他のグループとのネットワーク化し、市民と行政の協働を今後何十年も継続していきたい。10月に緑に関する学習会をやるので、よかったら参加してほしい。

- ・テーマ2：「野火止用水」の表の数値が合わない。違うのではないか。
出典・資料の表記をしてほしい。
- ・テーマ2：「野火止用水」のタイトルを「・・・保存」「・・・保全」に訂正する。
- ・テーマ3：「農のあるまちづくり」、4.教育・学習について、農作物をつくるときの指

導や交流などを提案・提言してほしい。

学童菜園については記載している。

教育委員会や地域を巻き込んだ内容を盛り込んでほしい。

- ・テーマ1：「緑のあるまち」 「行政によるビオトープ化」を入れてはどうか。

樹木保存の支援費について入れてほしい。

学校教育での環境教育・食農教育・地域的な取り組みについて入れてほしい。

- ・テーマ1：「緑のあるまち」 6 . 定期借地権について、誤解のない表現にしたらどうか。

練馬区で、借地権に準じた活用をしている。

国立市でも、類似事例がある。

提案者に再確認する。

- ・テーマ1：「緑のあるまち」 相続税への支援は不要ではないか。

宅地部分は農地にはならない。

提案者に再確認する。

巨木の保存などについては、提言できる。

保存樹に固定資産税はかからないが、相続税は宅地並みにかかる。保存のためには、基金等が必要である。